

「街らしさ」の様相とその発生要因に関する研究

山田千紘
指導教員 八尾廣
建築設計計画研究室

1. 研究の背景と目的

1.1. 研究の背景

東京都内といえば、高層ビルが多く立ち並ぶというイメージがあるが、その中には特色のある魅力的な街が存在していることに気づく。それらの街のどの部分が魅力的だと感じるのか、「街らしさ」とはそもそも何なのだろうか。それが本論文のテーマである。東京都内の街の中から散歩して楽しい街を選定し、その「街らしさ」の発生要因を抽出し分類、比較しながら、「街らしさ」についての考察を深めたい。

1.2. 研究の目的

本研究では東京23区内の魅力的な街を選定し、様々な視点から魅力の発生要因を抽出する。「街らしさ」の一端を明らかとし、考察を深めることを目的とする。

2. 研究対象

2.1. 選定

東京23区内の街を対象とし、界限や「街らしさ」の感じられる通り（ストリート）について現地調査を行う。調査対象の選定方法は下記による。

2.2. 選定方法

WEB サイト「旅行用品研究」の国内ガイドブック・ランキングを参考に、最も発行部数の多い順に11冊の東京街歩き関連雑誌・書籍¹⁾を選んだ。これらに掲載されている街のリストを作成し、そのうち対象範囲が徒歩圏のスケールに収まる以下19の街（界限、通り）を選定した。

No.	街の名称	調査対象の界限・通りの名称	No.	街の名称	調査対象の界限・通りの名称
1	丸の内	丸の内仲通り	11	アメヤ横丁	アメヤ横丁
2	銀座	中央通り	12	秋葉原	中央通り
3	日本橋	中央通り	13	御茶ノ水	明大通り
4	人形町	人形町通り	14	神保町	神田古書店街
5	馬喰町	横山町問屋街、新道問屋街	15	麻布十番	麻布十番商店街
6	浅草	仲見世通り、伝法院通り、西参道商店街	16	新宿	歌舞伎町一番街、思い出横丁
7	合羽橋	合羽橋道具街	17	原宿	竹下通り
8	日暮里	日暮里織機街	18	表参道	表参道
9	谷中	谷中銀座	19	自由が丘	九品仏川緑道
10	池袋	乙女ロード			

表1 現地調査を実施した通り

3. 研究方法

3.1. 現地調査

選定した街に実際に行き、建築、街路、看板（サイン）、物のあふれだし、街全体の景観を観察し、これらを写真撮影にて記録した。主として街並みにおける第二次輪郭線^{注1)}及び路面上に存在する「街らしさ」が現れていると思われる諸要素を抽出し、諸要素の配置や地面からの高さ、カテゴリーにより分類した。その上で地図上に諸要素の配置をプロットし、街路長さ10mあたりの出現回数（出現頻度）を求め、比較表にまとめた。

注1) 芦原義信は、「街並みの美学」（岩波書店、2001）において、建築の本来の外観を決定している輪郭を「第一次輪郭線」、建築の外壁以外の突出物や一時的な附加物による形態を「第二次輪郭線」と呼び、アジア諸国の街並みは「第二次輪郭線」で決定されることが多いことを指摘した。

3.2. 「街らしさ」の背景に関する調査

調査対象の通りを含む街の歴史の変遷過程を自治体や図書館所蔵の資料により調査し、街並み形成の経緯について把握した。また、都市計画図により景観規制や道路斜線の勾配等を調べ、景観に対する法規制の影響についても理解し、「街らしさ」の形成の背景について把握した。

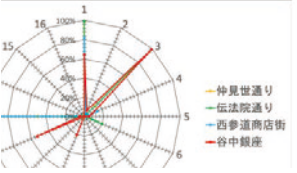
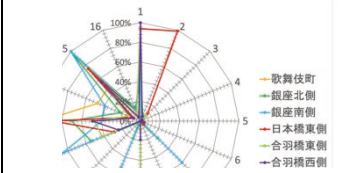
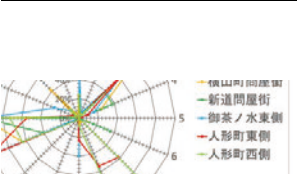

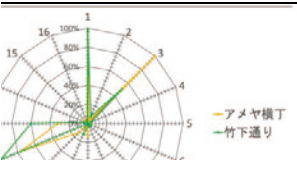
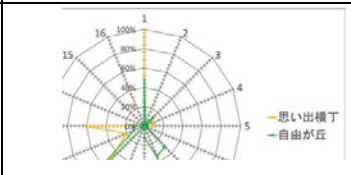
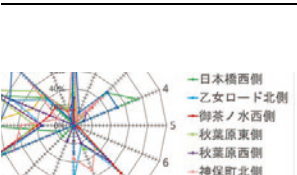
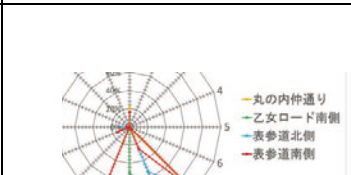
3.3. 調査結果の分析

3.1で作成した比較表における諸要素のうち、細かな商品の陳列などいわゆる物の「あふれだし」以外の要素について出現頻度を元にレーダーグラフを作成した^{注2)}。グラフの各座標を表2下の凡例に示した。これらの座標については、1-4：1階レベルの建築への付加物、5-11：路面上の諸要素、12,13：2～3階レベルの建築への付加物、14-16：4階以上～屋上における建築への付加物 というように、通りの断面における諸要素の位置ごとにまとめた。レーダーグラフの特徴にもとづき、対象となる通りを分類しグループ化した。その結果を元に「街らしさ」の様相がどのような要因で出現するか、さらには「街らしさ」とはそもそも何なのかについての考察を行った。

注2) 物のあふれだしについては測定方法の違いや、商品のあふれだしの測定に正確性を欠くこともあり、厳密な数値化が困難であった。このため、考察において同じグループ内の通りを比較する際、参照するにとどめた。

4. 調査結果

3.3で作成したレーダーグラフの特徴を元に、似た傾向をもつ通りをグループに分類した（表2）。今回選定した通りは、大きく8つのグループに分類することができた。

 <p>グループ 1</p>	<p>通りの名称> 草仲見世通り 草伝法院通り 草西参道商店街 中銀座</p> <p>特徴> 壁面看板、2~3階突出看板、庇(鈍角)の数値が高い。</p>	 <p>グループ 5</p>	<p>通りの名称> 宿歌舞伎町一番街 座中央通り北側・南側 本橋中央通り東側 羽橋道具街東側・西側</p> <p>特徴> 壁面看板、2~3階突出看板、4階突出看板の数値が高い。</p>
 <p>グループ 2</p>	<p>通りの名称> 茶ノ水明大通り東側、形町通り東側・西側</p> <p>特徴> 3階壁面、突出看板、庇(鈍角)の数値が高い。</p>	 <p>グループ 6</p>	<p>特徴> 壁面看板、庇(鈍角)、街路樹の数値が高い。</p>
 <p>グループ 3</p>	<p>通りの名称> メヤ横丁 宿竹下通り</p> <p>特徴> 壁面看板、2~3階壁面看板、庇(鈍角)の数値が高い。</p>	 <p>グループ 7</p>	<p>通りの名称> 宿思い出横丁 由が丘九品仏川緑道</p> <p>特徴> 壁面看板、2~3階突出看板、ストリートファニチャーの数値が高い。</p>
 <p>グループ 4</p>	<p>通りの名称> 袋乙女ロード北側 茶ノ水明大通り西側 葉原中央通り東側・西側 保町神田古書店街北側・南側</p> <p>特徴> 壁面看板、2~3階壁面、突出看板4階以上壁面、突出看板の数値</p>	 <p>グループ 8</p>	<p>通りの名称> 参道北側・南側</p> <p>特徴> 街路樹の数値が高い。</p>

10. に対応する要素： 1. 1階壁面看板 2. 1階突出看板 3. 庇(鈍角) 4. 庇(鋭角) 5. 商店街ゲート型 6. ボールサイン型 7. 街路樹(高木) 8. 街路樹(低木) 9. 街灯 10. 街灯フラッグ付き 11. ストリートファニチャー 12. 2~3階壁面看板 13. 2~3階突出看板 14. 4階以上壁面看板 15. 4階以上突出看板 16. 屋上看板

グループ分けをして同じような形のグラフを重ねることで、特に突出している要素を明確にすることができた。グループ1:「統一型」出現する要素のばらつきが少ないため、統一性があることがわかる。グループ2:「中層型」要素の出現レベルが1階から3階であり、情報が自然と目に入る通りである。大きく異なる点は物のあふれだしである。グループ3:「低層高密度型」店舗の規模が小さく、低層部分の要素の密度が非常に濃い。商品のあふれだしも非常に多く、雑多な雰囲気である。グラフの値が酷似している同グループであるが、大きな違いはグラフ外の要素・色である。グループ4:「情報横溢型」1階レベルから屋上レベルまで、看板の付加が非常に高く、情報量が非常に多い。しかし、同グループ内であっても看板の規模により、大きさが異なるため、通りの印象は違う。グループ5:「突出看板型」突出看板が多いことがわかる。各通りの条件(間口の狭さ、意匠性の高いファサード、アーケード)により、高層レベルの突出看板の出現が多い。グループ6:「高層建築低層集中型」グループ

1と似た要素を持つが、違いは街路樹である。さらに、グラフ外の要素・建築の高さによる印象の差が大きい。グループ7:「ストリートファニチャー型」ストリートファニチャーの要素が強く示される街である。そのため、特有の雰囲気が通りに現れることがわかる。グループ8:「街路樹優先型」街路樹の数値が非常に高い。通りの最優先は街路樹であるため、街路樹に調和した通りを形成している。二次的輪郭線の要素がほぼ出現しないため、一次的輪郭線の強い建築が多く立ち並ぶことがわかる。

5. まとめ

本研究では二次的輪郭線および路面上の諸要素について、通りの特徴を視覚化し分類することができた。しかし、実際にはそれ以外の要素(一次的輪郭線・物のあふれだし、通りのスケール、色、昼夜など)も「街らしさ」に大きな影響を与える。これらの指標をいかに数値化し、「街らしさ」の指標として抽出するかに関しては、今後の課題としたい。